



公共事業“見直し”が本気なら

外環計画こそ すぐ中止せよ

「走り出したら止まらない」といわれてきた公共事業に、はじめて“見直し”のブレーキが掛かりました。自民党など与党3党は、8月28日、全国233件の事業の中止を政府に勧告、島根県中海干拓など24件について具体名を公表。また、住民投票で徳島市民の9割以上が反対していた吉野川河口堰についても「白紙」に戻して再計画を立てるとしています。さらに建設省でも全国34の事業について、独自の見直し基準をもとに中止を含めて検討すると発表しました。これは、さきの総選挙で民主・共産など野党側から公共事業“ばらまき”批判をうけ、与党側は“ばらまき”のどこが悪いと居直っていたものの、都市部での手痛い敗北に遇って危機感から態度を豹変させ、鳴り物入りで“見直し”作業を進めたものです。ゼネコン本位の公共事業への厳しい世論の反映であり、住民運動の大きな勝利といえます。政府・与党は、現在来年度予算案の編成作業をすすめており、2001年7月の参院選挙を控えて、公共事業の取り扱いは、最大の政治問題になることが必至の情勢です。

「逆立ち予算」はそのまま

与党3党の「公共事業見直し基準」は、①採択後5年以上経っても未着工 ②完成予定から20年以上経っても未完成 ③現在、休止中 ④実施計画調査に着手後10年以上経っても未採択——の4基準に該当する事業について、「原則中止」すべきだとしています。しかし、亀井自民党政調会長らは、「公共事業費の総ワケは減らさない」「復活もありうる」などと述べ、ゼネコン型の逆立ち予算の仕組みを変える姿勢などまったくみられません。これではマスコミからも厳しい注文がつくのは当然でしょう。

市川市の財政も借金地獄に

外環道路反対運動は、来年で30年。①2000戸を超す住民追い出し ②市街地の分断 ③自動車交通の大量導入による大気汚染・騒音・振動などの環境破壊——などがそのおもな理由でした。さらに、国・市財政に与える影響も深刻です。1兆5000億円（うち

市の関連事業費1500億円)もの巨費を投じて市のど真ん中をつらぬく計画は、まち(自治体)こわしそのものであり、それをあえて推進するなど、まさに自殺行為。市財政も借金地獄に堕ちるでしょう。

外環道路こそ「百害あって一利なし」(市川市「外環白書」)。政府・与党が本気なら、まっさきに外環計画を、見直し・中止の対象にすべきです。

小塚山の森を壊すな —— 遺跡発掘が終われば外環工事のおそれ ——

小 沢 剛

4月から始められた埋蔵文化財の発掘調査は、建設省(首都国道工事事務所)が県文化財センターに発注しているものです。調査範囲は北国分1丁目の愛宕神社遺跡北側と、小塚山緑地の隣に在る稲荷作遺跡の2か所。

8月までに、愛宕神社遺跡北側からは旧石器時代の遺構が3か所、縄文時代の獣の落とし穴跡が2か所、鎌倉・室町時代の東西に伸びている古道が出土しました。

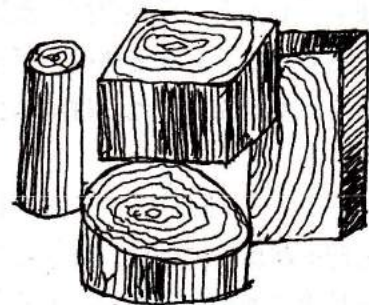
また、稲荷作遺跡からは、江戸時代の古道が3本と縄文土器片が数十点出土したほか古墳時代の住居跡が3か所見つかっており現在調査中です。このあと、小塚山遺跡の調査に移る予定ですが、小塚山はかつて宅地造成中に完形の弥生土器が発掘され、また切り離しの崖を市が修復した時に縄文土器の破片が出土しています。

小塚山の森には、道免き谷津を隔てた堀之内貝塚と同様に古代集落が存在していたのではなかったか。このことは発掘調査を経なければわかりませんが、かつて北国分在住の考古学者、麻生優先生(故人)も堀之内貝塚にも近く小塚山に古代集落の可能性が考えられると語っておられました。

26年前、わたしたちは小塚山の樹木の不法伐採に抗議して、この森を守る請願署名運動を起こし、市有地として守りとおしました。

こうした価値のある文化遺産である小塚山の森を、外環計画で、山ごと削り取ること、森の樹を伐採することや移植する工事など絶対に認めることはできません。

わたしは、市川市の誇りでもある小塚山市民の森と小塚山緑地をいつまでも残すために、市への要請署名をはじめています。



北国分外環対策協議会

第30回 総会をおわって (報告)

平成12年8月5日(土) 小塚山研修所

AM10:00 より

活動報告と決算報告の承認。このあと、竹内庸悦さんのスライドとお話に移る。
北国分の今昔ともいべき30年前と現在との比較スライドに、今更のようにその
変貌ぶりに驚きました。

北国分外環対策協議会 平成11年度会計報告

会計 朝倉かつ子
会計監査 中村 祐三

収入		支出	
(1) 会費	136,800円	(1) 通信費	10,913円
(2) 事業費	15,865円	(2) 「緑のまち」発行費	57,000円
(3) 寄付金	5,400円	(3) 外環連合分担金	45,000円
(4) 利子	316円	(4) 会場費	4,240円
(5) 前年度繰越金	512,928円	(5) 慶弔費	1,000円
計	671,309円	計	118,153円
		次年度繰越金は	553,156円

なお、事業費収入の内訳は以下の通りです。

(森の音楽会実行委員会報告より)

収入	竹内庸悦氏のスケッチ販売	60,000円	支出	出演者謝礼	80,000円
	補助金・カンパなど	60,797円		諸雑費	24,932円
計	120,797円		計	104,932円	
	この差引残高			15,865円	

北国分台地を描いて

竹内 庸悦

私は風景を描くことを仕事のひとつとしている。外国の風景が多いが、北国分や北総の風景もよく描く。こんな場所でも絵になるのかと問われることもままある。絵を描く人間から見れば、世界は風景の集積なのだが、その対象を私は二つのカテゴリーで考えている。一つは旅などして日常性から開放された未知のロマンを求めるもの、他はありふれた身近から心ひかれる世界を発見しようとするものである。芭蕉の「荒海や 佐渡によこたふ天河」は前者を、「よくみれば薺（なずな）花さく垣根かな」を后者の代表とみている。

そこで我々の周辺をよく見ると、ここには得難い自然の恵みがふんだんにある。堀之内貝塚、小塚山の森をはじめ、至る所の植物、地形の適度な変化、季節の移り変わりの美しさは、独歩の武蔵野だ。20数年以前には、私の貧乏も一人ということもあって、身近な国分台地の風景ばかりを描いていたが、そのころのスケッチや資料のつもりで撮った写真を見ると、さすがにこの間の変化は激しい。無自覚のうちに、自分がこの地の変貌の目撃者にさせられてたような思いがする。鉄道の開通による北国分駅周辺の急変は特に著しいし、矢切駅付近とともに今後一段とその変貌に拍車がかかることだろう。

その地の風景は、そこに住む人々の心の投影にはかならない。いま、我々は改めてこの地の良さを確認し、生活と心を守るために一層厳しい目撃者になるときではないだろうか。



かつての風景



現在の堀之内

(撮影：竹内庸悦)

紙ヒコーキを飛ばそう会 (報告)

2000年8月20日 小塚山研修所・芝生の広場

数日前より天気予報は午後雨でしたので、作るだけで飛ばせないのではと、心配してありましたところ、よいお天気になりほっとしました。

「緑のまち」のおしらせでは、日時が早かったせいで申し込みがありませんでしたが、市の広報に出てから申し込みが入って、7名ぐらいでした。ところが当日飛び入り参加の方が7名来られて、別に小型機(90%完製)を用意していたので全員機体は間に合いました。

製作には皆さん初めてだったようで、お父さん(2人)、お母さん(6人)が奮闘して下さって、11時頃出来上がりました。早速、芝生の広場で飛ばしましたが、樹に引っ掛かる機体が続出、取るのに大変。中には3・4回旋回して拍手が起きた飛行機もありました。

私も前からいろいろと手順を考えていたのですが、当日は良く出来ませんで、皆様にご迷惑をかけました。朝倉さん、お手伝いいただき、有り難うございました。

(石居 靖弘)

紙ヒコーキを家族で飛ばして

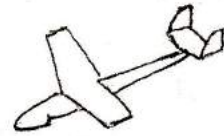
中国分 垣沼 舞

自分の作った紙ヒコーキが空に舞うなんて……。息子は幼稚園の年長組ですが、父親が手伝った紙ヒコーキを飛ばしたところ、頭上高く、緑を背景に四周もいたしました。

拍手を浴びましたが、どんなに嬉しかったことか。

私たちが入っていくと、小学生がカッターナイフで設計図を切っていました。機体を中心に両翼の角度を決めて組み立てるのが難しい。石居先生が親切にご指導なさいました。

楽しい一日でした。



一方的な外環説明会は許さない

— 北国分・堀之内を守るために —

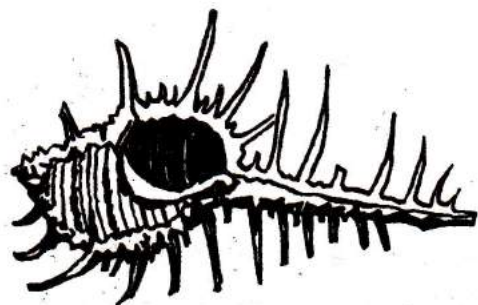
建設省・首都国道建設事務所は、北国分・堀之内・中国分・国分地域の外環用地・設計説明会を早めたい意向です。時期は、今年の12月ころを予想しています（8月開催の県環境保全部会の審議で判明）。

これまで矢切地区・高谷地区で5回ほど開かれた首都国道工事事務所主導の説明会は市民には知らせず、ただ従えというもので民主主義とはかけ離れた、ひどい“説明会”でした。夜7時から9時までですが、大体建設省の形式的な説明が1時間半くらい。あとの30分は質問時間で、聞きたい人が大勢いても、5～10分で、納得しようがしまいがマイクを取り上げてしまいます。はなはだしい時はマイクのスイッチを切ってしまう。参加者が非民主的なやり方を改めるよう要請しても聞く耳を持ちません。

工事説明会もこんな調子で、矢切地区では工事が始められています。

こんな横暴な運営を許すわけにはゆきません。このままだと、小塚山緑地は全部削り取られるでしょう。小塚山市民の森もトンネルにせず、森を切り開く開削工法の危険性があります。小塚山遺跡、道免き谷津の遺跡環境を保全することなどまったく考えていないようです。

本腰を入れて北国分地域に外環を通さない具体的な運動を起こす必要があります。そのために、百害あって益のない外環の実態を知るための勉強会や、市への要請など活発にしていきたいと思います。



[おしらせ]

なくせ公害・守ろう地球環境

全国公害被害者総決起集会

9月27日（水）午後6時より

文京シビックホール（水道橋下車 文京区役所隣）

＝緑のまち合唱団も参加します。おでかけください＝

松葉ぼたんの寺

朝倉 かつ子

松葉ぼたんの咲く寺は、田んぼの真ん中にある。藁ぶき屋根で住職もいない小さな寺だが、祖母と並んで手を合わせる墓には享保だの天明だのと古い文字が刻まれていた。南面には広々とした庭があって、夏にはいっせいに松葉ぼたんが咲きほこっていた。

松葉ぼたんは、朝日に咲き始め、夕日には蕾むが、赤、黄、白、ピンクにオレンジと色とりどりに小さな花が地を這うように咲く。一面に咲く光景は幼かった私にとっては初めて出会う花園であった。摘んでは束にしてかざす孫娘を祖母は目を細めながら見ていた。二人にとって、それは陽光のきらめくような至福のひと時であったのだろう。

長男で商売も順調だった私の父が急逝し、続いて次男で職工長をしていた叔父が精神疾患を患う。急速に衰え、足腰が立たなくなった祖母をリヤカーにに乗せて母と私が押してわが家に連れて来たことがある。幾夜か過ごして叔母の所へ帰ったが、街は戦時体制。集団疎開に参加したので私が見た祖母の最後の姿である。

祖母はちんまりとリヤカーに坐っていた。寺は、現在住宅に挟撃されて往時の面影はない。私は祖母を松葉ぼたんの咲く花野にすっきり立たせる。広野原は四季の折々の花が咲き乱れる浄土。花の影で祖母は微笑み、やさしく花束をかざす。



まつぼたん(すべりひゆ科)
葉はななめにたちあがり、長さ約20
cm。葉はまつ葉のようだが太い。花
は昼開き夜とじる。(南アメリカ)

(「植物の図鑑」小学館)

稲荷作の発掘に思う

県文化財センターによる北国分地区外環予定用地の発掘が進んでいます。愛宕神社横の発掘地点からも踏み固められた古い道が出ていますが、稲荷作(もと伊藤金属の杜宅マンションがあった所)からも、道が出ました。ほぼ南北に、化研病院の方向に延びた3本の道。おそらく農民が畑に通った農道でしょう。幅は2mもありませんから。

江戸時代の瀬戸物のかけらや泥メンコも出ています。そして、いま調査中ですが、古墳時代中頃の住居跡が2軒。縄文土器の破片も出ています。いまから3500年くらい前、堀之内貝塚の土器と同じころの土器片です。この台地に、おそらく地形の変化はあったのでしょうが、3500年前にも、1800年前にも、500年、300年前にも、ここで生活していた人たちがいたんだなあ、と改めて思ってみたりしました。(K)

緑のまち あれこれ

- 竹内庸悦さんの「市川の自然を守ろう」絵ハガキ集ができました。
市川北部の水彩画スケッチ 8枚組 500円です。

市川よさを改めて認識し、30年にわたる外環に反対する住民運動により「一層のご理解とご協力を賜りたいという念願を込めて」作成されました。小塚山をテーマ・モチーフとした美しい絵ハガキです。
ご希望の方は、竹内ギャラリーにサンプルがあります。ご覧ください。

372-8408 竹内ギャラリー
372-5381 事務局 三宅

運動を支えてくださる

会員募集

30年間「外環はいりません」と運動を続けてきました。状況はきびしくはなっていますが、社会情勢が味方になってきています。あきらめないで、「緑のまち」の発行を続けたいと願い、みなさんのお力をいただきたいと切に願っております。

年会費 1,200円

連絡先	事務局	372-5381	三宅
	会計	372-8033	朝倉

■編集後記■

○異常な暑さ続きですが、世界各地でも異変が起こっているようです。人間のおごりが地球を変えてしまったともいえます。わたしたちのささやかな心がまえも大事と思います。

○本年度の総会の報告にもありましたが、竹内さんにスライドとお話をお願いし、その内容を改めて文章でお書きいただきました。30年前の写真と現在をくらべてみて、今昔の変貌ぶりに驚かれる方も多いのではないでしょうか。写真は、縄文の小径からベルクスの方へ上がる道。かつて権現原への農道の所です。